

## 自己評価報告書

平成23年 4月1日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520063

研究課題名（和文）四世紀カッパドキア三教父による救貧の思想と実践

研究課題名（英文）Thoughts and Practice of Philanthropy of the Cappadocian Fathers

研究代表者

土井 健司 (DOI KENJI)

関西学院大学・神学部・教授

研究者番号：70242998

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：宗教哲学

## 1. 研究計画の概要

本研究は、四世紀に活躍したカッパドキア教父の救貧思想とその実践を主題とする。カッパドキア教父とは、大バシレイオス、ナジアンゾスのグレゴリオス、そしてニュッサのグレゴリオスの三名を指す。2008年までにニュッサのグレゴリオスの救貧思想については一定の研究を実施してきたが、その限界を感じ、これを彼の兄弟バシレイオス、友人ナジアンゾスのグレゴリオスにまで広げて研究する必要を自覚して、時代ならびに地域を共有した三人の教父の救貧思想を全体的に研究することを志した。

四年計画としたのは、最初の三年で一通り三名の救貧思想を検討し、最終年で全体的な考察、ならびに研究過程で見えてくる新たな問題などを考察するためであった。

## 2. 研究の進捗状況

研究に着手した2008年度には、それまでニュッサのグレゴリオスを中心にその救貧思想を研究してきたので、その成果をまとめ発表しつつ、新しくバシレイオスとナジアンゾスのグレゴリオスの研究の準備を行い、基礎研究を行った。

2009年度は主にバシレイオスについて研究を続けて実施し、その成果をキリスト教史学会において発表した。なおこの発表は論文化して翌年の学会誌に掲載されている。

2010年度はナジアンゾスのグレゴリオスについて研究を行い、その成果を日本宗教学会において発表した。これも論文化し、関西学院大学のキリスト教と文化研究センターの紀要に掲載している。

カッパドキア教父の救貧思想としては、とくにフィランソロピア論にその独自性を確

認する方向で研究を進めており、実践についてはバシレイオスの建立した病院施設、通称「バシレイアス」を中心に考察を行っている。

なおフィランソロピア論については、古代ギリシアにおける最初期の用例から検討しつつあり、その過程でカッパドキア教父以前のキリスト教におけるフィランソロピア論を研究する必要性も感じている。また実践についてもカッパドキア教父以前の実践例、たとえば三世紀半ばにローマ帝国の広範囲に渡って流行した疫病（キプリアヌスの疫病）におけるキリスト教徒の実践などにも考察し、両者を比較する必要がある。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

予定しているカッパドキア教父三名について、それぞれの救貧思想を研究し、その成果を発表している。

## 4. 今後の研究の推進方策

本年度はこれまでの研究において積み残した課題を研究していく。

(1) バシレイオスの著作におけるフィランソロピア概念について、従来論じられてきたテキストを含め、その全用例について検討していくこと。用例全体についてはすでにチェック済みであり、その用例を文脈に応じて一つひとつ研究していき、彼のフィランソロピア論をまとめる。

(2) バシレイオスの建てた病院施設「バシレイアス」について残存する資料からその実態を考察する。その過程で昨年入手したその病院絵図（9世紀の写本に描かれた挿絵）の考察も行う。

(3) ユリアヌス帝のフィランスロピア論について、昨年入手した参考文献を含めて、その全体を考察し、カッパドキア教父のフィランスロピア論と比較し、後者の特徴を歴史的な視点から解明する。

(4) すでに研究したニュッサのグレゴリオスの救貧思想を再考察し、また昨年度の課題であったナジアンゾスのグレゴリオスの救貧思想についても研究全体の視点から再考察する。

以上をもとに最終的には「カッパドキア教父の救貧思想」について全体を総括する研究書を執筆する予定でいる。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

①土井健司、ナジアンゾスのグレゴリオスとレプラの病貧者——第十四講話における救貧思想、『関西学院大学キリスト教と文化研究』、査読無し、12号、2011年、39-58頁。

②土井健司、どうすれば貧者の苦があなたには見えるのか——飢饉におけるカイサレアのバシレイオスの救貧思想、『キリスト教史学』、査読あり、第64集、2010年、148-171頁。

③土井健司、バシレイオス：飢饉と早魃のときに語られた説教、『神学研究』、査読無し、第57号、2010年、67-81頁。

④土井健司、ニュッサのグレゴリオスにおける救貧と否定神学、『パトリスティカ』、査読無し、第12号、2008年、37-54頁。

⑤土井健司、フィランスロピアとキリスト教批判の諸相、『宗教研究』、査読あり、第357巻、2008年、205-225頁。

[学会発表] (計4件)

①土井健司、キリスト教における生命至上主義とQOLの概念、日本生命倫理学会第22回年次大会、2010年11月20日(名古屋；藤田保健衛生大学)。

②土井健司、ナジアンゾスのグレゴリオスにおける救貧思想——第十四講話を中心に、日本宗教学会第69回学術大会、2010年9月5日(東京；東洋大学)。

③土井健司、カイサリアのバシレイオスの救貧思想、キリスト教史学会学術大会、2009年11月22日(東京；国際基督教大学)。

④土井健司、古代キリスト教と人間愛(フィランスロピア)——四世紀カッパドキ教父の救貧思想への序、日本宗教学会第67回学術大会、2008年9月15日(筑波；筑波大学)。

[図書] (計2件)

①向井考史編『人間の尊厳と深淵』、関西学

院大学出版会、2010年、49-65頁(第3章、社会の深淵に沈む「人間」への眼差し——カイサリアのバシレイオスとニュッサのグレゴリオスの救貧思想)。

②小松美彦・香川知晶編『メタバイオエシックスの構築へ』、NTT出版、2010年3月、185-205頁(忘却されし者へ眼差しを——バイオエシックス・人間愛・キリスト教)。